中学校　資料名「二通の手紙」（出典：私たちの道徳）

◆**学校名**　富田林市立金剛中学校，千早赤阪村立中学校，　東大阪市立枚岡中学校，松原市立第七中学校

◆**主題名**　遵法精神、公徳心　　◆**道徳の内容**　C－規則の尊重

◆**ねらい**　きまりを遵守し、確実に義務を果たすことの重要性を学び、社会の秩序と規律についての道徳的判断力を養う。

◎**中心的な発問**

元さんが「この年になって初めて考えさせられたこと」とは何だろう。

◆**本時の展開**

	学習活動	発問と予想される子どもの反応	指導上の留意点及び評価
導入	◎身近にどんなきまりがあるのかを考える。	身近にどんなきまりがありますか。どうしてきまりはありますか。 ・学校の規則 ・交通ルール ・憲法	○ 身近にどんなきまりがありますか。どうしてきまりはありますか。 ・きまりの必要性を自分なりに理解し、文章で表現しているか。　（ワークシート）①
展開	◎資料を読む。 ◎登場人物の確認をする。 ◎元さんが姉弟を入園させた理由を考える。	元さんは、きまりを破ることがわかっていながら、どうして姉弟を入園させたのでしょう。 ・毎日動物園に通ってくれていたから。 ・弟のためを思い、お金をためた姉の気持ちを無駄にしたくなかったから。	○最後まで読む。 ○ルールを違反してまでも、姉弟を入園させた元さんの思いを考える際、思いも大切だが、ルールを守ることが大前提ということを教師側が持っておくこと。 ・元さんの気持ちに寄りそう一方で、規則に対する規範意識についても考えているか。（ワークシート）②

展開	◎元さんの気持ちや葛藤について考える。 ◎二通の手紙を通して元さんが考えさせられたことは何だったのを考える。	事務所で連絡を待つ元さんは、どんな気持ちだったでしょうか。 ・遅いけど、無事でいてほしい。 ・自分の判断は誤っていたのだろうか。 ・何かあれば自分の責任だ。 元さんが「この年になって初めて考えさせられたこと」とは何だろう。 ・姉弟、母親からの感謝の気持ちの裏で、周りのみんなには迷惑をかけてしまった。 ・規則を破ることは、何があってもいけないことだった。 ・自分の感情だけで行動することは、他の人たちを巻き込むことになる。 補足質問 佐々木さんから元さんの話をきいた山田さんがどんな気持ちになったかを考える。	○元さんの心の中にある葛藤に焦点をあて、気持ちを考える。 ・心の揺れを感じ取っているか。 （ワークシート）③ ○二通の手紙を通して元さんの思いにどのような変化があったのかを考えさせる。 ○なぜ規則を破ってはいけないのか、なぜ規則はあるのかも考えさせる。 〈評価〉 ・元さんの取った行動から、きまりが存在する意義について考えようとしているか。また、きまりを守ることで秩序が保たれ、個人の自由が保障されていることに気づいているか。 （ワークシート）④ ・山田さんの立場から考えるとどんなことがあってもきまりは大切ではないかという考えをぶれずに持つことができるので、元さんの立場に限らず、他の人の立場からも考えさせる。
終末	◎元さんへの３通目の手紙を書く。	「山田さんになったつもりで、元さんへの手紙を書いてみましょう。」	〈評価をいかした支援〉 ・自分のこととして捉えられるように促す。 （ワークシート）⑤

【二通の手紙】ワークシート　　（　）年（　）組〔　　〕

①身近にどんなきまりがありますか。また、どうしてきまりはあると思いますか。

②元さんはきまりを破ることがわかっていながら、どうして姉弟を入園させたのでしょう。

③事務所で連絡を待つ元さんは、どんな気持ちだったでしょうか。

④元さんが「この年になって初めて考えさせられたこと」とは何だろう。

⑤山田さんになったつもりで元さんへの手紙書きましょう。

◆研究のまとめ

○授業実践について、チームとしてのまとめ

〈成果〉

① チームとして、検討し、指導案を立てたことで、自校での指導案検討の際、深めることができた。また、授業内でも、おおよその展開を予想し、授業することができた。

② 中心発問での意見発表等、予想した答えのみならず、個々の意識・思いを反映した意見交流ができた。

③ チームとして、授業の交流をできたことで、学校の実態（クラス数、生徒の意識実態、学年教師集団の実態等）で、様々な実践のパターンがあることがわかり、生徒や学校の実態にのっとり、授業を工夫し、実践することが大切だと改めて、感じた。

④ 中心発問のあとに、手紙を書かせたことで、「きまり」について、自分の考えを書くことができた。

〈課題〉

① 〈成果〉③とも関連するが、学年会議で打ち合わせをし、各クラスで授業にのぞんだが、授業者の温度差があり、不安も残る。

② 生徒の実態をつかみ、授業を工夫しないと、表面上流れてしまうこともあり得る。

③ 今回のねらいは「決まりを遵守し、確実に義務を果たすことの重要性を学び、社会の秩序と規律についての道徳的判断力を養う」であった。ねらいはある程度達成できた。一方、情という面で、「きまり」は変更出来るという意見も多く、授業者がどういう授業にしたいのかという視点により、結論がかわる可能性がある。（評価にも係わる）

〇道徳の評価についての提言

●道徳では、道徳の授業だけでなく、普段の生活や言動から生徒がどのように変わっていったのかを見取る必要があるが、その変化を担任が主に評価するには限界がり、誰がどの場面で評価するのかが難しい。

●担任が評価するとしたら、たくさんある項目の中で、１年間に全ての項目の評価を見取ることは難しく、大変な負担がかかるので、どうすればよいのか。

●学校によって、また学年によっても生徒の質が違うこともあり、同じ教科書を使って授業を進め、評価を文章で行う時に何をどんなふうに評価していくのかの、バラつきがでるのではないかと不安である。

【各校での実践の記録】

◆実施学年　（３年）

◆評価を位置づけた授業実践の分析

○評価の実際（評価した子どもの姿や、それをもとに行った支援）

導入

・どんなきまりがあるか、具体例を積極的に発表している様子を評価した。
・家庭でのルールをいろいろ聞いたので、それぞれに理由があってそのルールがあるのだということが理解しやすかった様子だった。その事が自分の意見を言いやすい雰囲気につながったと思う。
・ワークシート①では、十分話し合う場をもち、きまりの必要性を自分なりに理解し、文章で表現しているかを評価した。

展開

・ワークシート②では、ルール違反であることを知っていながらあえて入園させた元さんの気持ちを捉えているか、評価した。
・保護者が同伴できない事情、まだ時間があるように思える時間帯、姉が弟思い、弟の誕生日…などいろいろな条件が揃っている状態だということを全体で確認し、理解している事を評価した。

・ワークシート③では、元さんの行為の問題点に気づいているか、評価した。
・口頭で、「母親からの手紙を読んだ元さんは、どんな気持ちになったのだろうか」と問うた。自分のした事は過ちだったが親子の幸福につながったことが、元さんの救いになっていることを確認した。元さんの気持ちを自分で想像して考えることができたのを褒めた。

・ワークシート④(中心発問)では、中には、「今まで真面目に仕事をしてきてよかった」などと書いていた生徒もいたが、大半は、元さんのした事は相手のためと思ってした行動だが、きまりを破ると危険だったり迷惑になったりすることもあるなどと書いていた。
・ただ単に、「規則を破ることはいけない」とだけ書いている生徒が多かったので、「なぜ規則を破ってはいけないのか」という所まで深く考えるように促し、そこまで考えが深まっていることを評価した。

・ワークシート⑤では、元さんに対する同情のことだけではなく、法やきまりが存在する意義について考えようとしている発言や記述があるか評価した。
・法やきまりを守ることで秩序が保たれ、個人の自由が保障されていることへの気づきが見られることを評価した。

実践校名（千早赤阪村立中学校）

◆**実施学年　（１年）**

◆**評価を位置づけた授業実践の分析**

○評価の実際（評価した子どもの姿や、それをもとに行った支援）

（二通の手紙）

○きまりについて考え、自分の持っている価値観に気づく

・きまりにはどんなものがある？の質問に、自分が普段、守っている学校の規則についてのきまりを考えた生徒が多かった。自分の身を守るためや他人との不公平感をなくすためなど、決まりは大切で、守る事が当然だという意見が多かった。そこで、もっと生活に密接した質問をしてみた。例えば、誰も見ていない時に赤信号を渡る？との問いに、３分の１ぐらいの生徒は手を挙げた。守ろうと思いながら少しくらいなら大丈夫だろうという気持ちを持っている生徒が、この物語を通じて自分の考え方に変化が表れるのかを意識しながら授業を行った。この物語を読んで、元さんが姉弟を入れた時の気持ちから、今まで味わったことのない気持ち（初めてこの年になって考えさせられたこと）への変化を通して、優しさの気持ちだけでは大変な事を引き起こしかねないということに気がつくように生徒へ考えさせるようにした。

○元さんの気持ちに寄り添りそうことをどう考えるか。

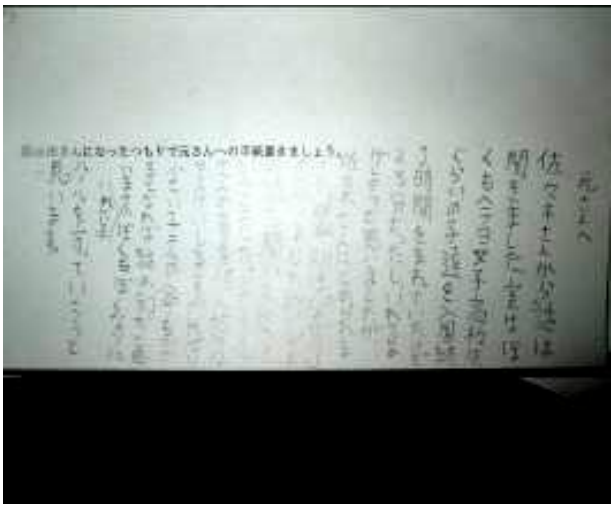
・ネームプレートを使い、元さんと同じ行動を自分ならするかしないかを黒板に示して、その理由を聞いてみた。自分も同じ行動をすると答えたＡは、理由として姉弟の気持ちを考えると、動物園に入れないということは人間として冷たいと理由を述べた。しかしその後、ＢやＣから姉弟の命が危険にさらされる、その時さえ良ければいいのではないという強い意見を聞いた。その意見を出し合ったことによって、「元さんがこの年になって初めて考えさせられたこと」という中心発問をした結果、Ａは「無責任な行動を取ったことで人に迷惑をかけてしまった」をワークシートに書き込んでいた。

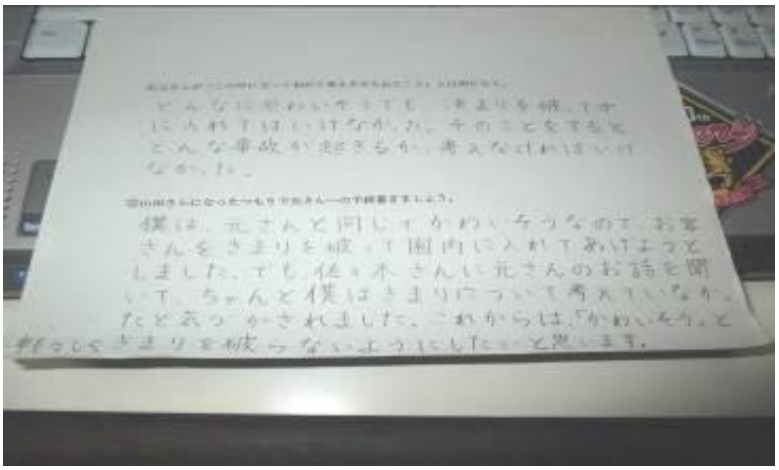
クラスの大半は「規則を守るということが大切である」と答える反面、中には「元さんは納得がいっていない」と書いたものもいた。

○山田さんへの手紙

・ほとんどの生徒が、元さんの話を聞かせてもらったおかげで山田さんに「ルールは守らないといけない」と手紙を書いていた。しかしその中にも「元さんに話を聞いていなければ、自分は元さんみたいに姉弟を動物園に入れていたと思う」と書いた生徒も多かった。気持ちの移り変わりがわかる文章から自分の考えが変わったことを読み取り、評価につなげることができた。

◆**評価に用いた資料サンプル（子どものワークシートなど）**





実践校名（富田林市立金剛中学校）

◆実施学年　（２年）

◆評価を位置づけた授業実践の分析

○評価の実際（評価した子どもの姿や、それをもとに行った支援）

◇中心発問の場面の発言の様子や内容から

・「規則は守らないといけない」という意見が一番多かったが、理由としては「周りの人に迷惑をかけるから」だった。指導者から「何の為に規則があるのか」と問いかけても「周りに迷惑をかけるから」という意見が多く、きまりを守ることが個人の自由が保障されるという所までは迫れなかった。

・「規則を破っても、元さんは良いことをしたと思う」という意見も多く、生徒の中にも葛藤が見られた。

◇振り返りの記述から

・「規則を守ることはもちろん大事だと思う。でも自分だったら元さんと同じ行動を取っているかもしれない。」ときまりを遵守することの重要性はわかっていても、気持ちの面で道徳的判断が難しい生徒もいた。

実践校名（松原市立松原第七中学校）